

新生児スキンケアの基礎的研究(第1報)

全国産科施設における沐浴実施状況

聖母会天使病院小児科

南部 春生

研究目的

種々の条件下で出生する新生児に対して、適切な管理が施され、胎外環境における適応が円滑にすすむことが常に要求される。

一般に健康胎児は羊水中で自らの皮膚を胎脂で覆いながら成熟、出生してくるが、出生直後のスキンケア、沐浴管理は施設によって相異があるものと想像される。

我々はこれらの点について現実どのように管理されているかを知るため、全国各地の産科施設にアンケートを送付し、以下に述べる解答を得た。

研究対象

各地域の出生1万人に対し3施設以上の病院を選択し(児童福祉法・母子保健法による未熟児指定医療機関)、該当施設の小児科医にアンケートを送付し、産科施設現場の助産婦などに解答を求めた。アンケート送付施設は478で、うち375(78.5%)が回収された。

研究成績

1) 調査対象施設総出生数

九州、沖縄地区29,291人、中四国地区25,059人、近畿、大阪、北陸地区65,170人、関東、甲信越地区95,834人、北海道、東北地区37,672人で、この総出生数253,026人は昭和60年全国総出生数の17.7%に相当する。

2) 出生数別施設数

1000人以上50施設(13.4%)、999~800、53(14.2)、799~600、80(21.4)、599~400、93(24.9)、399~200、68(18.2)、199~50、20(5.3)である。

3) 産褥入院日数

7日が125施設(33.5%)と最も多く、以下9日119(31.9)、6~7日47(12.5)、5日43(11.5)の順である。また4日以内の施設は4(1.1)と少ないが、2日で退院が1施設あった。

4) 出生直後の沐浴

出生直後の沐浴をしない施設は102(27.3%)で、うち胎脂をとる38(37.7)、そのまましておく63(61.8%)でこれは全体の16.9%である。また沐浴する施設は272(72.9%)で、うち112(44.9%)が温水浴、110(40.0%)が温水石けん浴を行っていた。

5) 新生児期の沐浴実施状況

毎日実施している施設が317(85.0%)と最も多く、隔日24(6.4)、退院時のみ実施14(3.8)であった。またベビーパウダーを使用している施設は7(1.9%)ときわめて少なかった。

6) 沐浴指導担当者

178(47.7%)が助産婦、132(35.4%)が助産婦・看護婦、以下44(11.8%)が看護婦、23(6.2%)がスタッフ全員であった。また母親に沐浴をさせる施設は179(48.0%)であった。

7) 家庭での入浴担当者

家族構成によって異なるのは当然であるが、これを母親とした施設は204(54.7%)と多く、以下母と父で88(23.6)、父42(11.3)、祖母がする21(5.6%)の順であった。

まとめ

健康新生児のスキンケアに関する研究はきわめて少なく、この初歩的とも思われる問題について全国的レベルで調査した報告はない。

我々は全国総出生数の約5分の1を担当する産

科施設 377 より沐浴、臍、眼の管理の実際についてのアンケート解答を得た。

沐浴をしない施設は 102 (27.3%) で胎脂をそのままは全体の 16.9% であった。

以後の沐浴は 85.0% の施設が毎日行っており、

母親に指導、させている施設は 48.0% でベビーパウダーの使用施設はきわめて少なかった。

今後は地域による相異も検討しながら、新生児の沐浴の是非、その必要性、母児感染時の処置のあり方などを探究する考えである。

表 1. アンケート調査対象施設数

A	岡 修一郎：福岡 (19), 佐賀 (4), 大分 (5), 長崎 (6), 熊本 (6) 8 県 鹿児島 (7), 宮崎 (5), 沖縄 (6)	58/58 (100%)
B	山内 逸郎：岡山 (5), 広島 (10), 山口 (5), 鳥取 (2), 島根 (3) 9 県 香川 (3), 徳島 (3), 愛媛 (5), 高知 (3)	38/39 (97.4%)
C	鳥居 昭三：新潟 (10), 石川 (2), 富山 (2), 福井 (3), 滋賀 (5) 11 府県 三重 (1), 京都 (10), 大阪 (25), 奈良 (5), 兵庫 (14) 和歌山 (3)	80/100 (80.0%)
D	赤松 洋：茨城 (4), 栃木 (5), 群馬 (7), 埼玉 (6), 千葉 (8) 12 都県 東京 (41), 神奈川 (20), 長野 (4), 岐阜 (4), 静岡 (11) 愛知 (17), 山梨 (4)	131/174 (75.3%)
E	南部 春生：北海道 (32), 青森 (6), 岩手 (8), 宮城 (6), 秋田 (6) 7 道県 山形 (6), 福島 (7)	71/107 (66.4%)
47 都道府県		376/478 (78.7%)

表 2. アンケート調査対象施設出生数

A	岡 修一郎：福岡, 佐賀, 大分, 長崎, 熊本, 鹿児島, 宮崎, 沖縄	187,803 ; 29,291 (15.6%)
B	山内 逸郎：岡山, 広島, 山口, 鳥取, 島根, 香川, 徳島, 愛媛, 高知	138,660 ; 25,059 (18.1%)
C	鳥居 昭三：新潟, 石川, 富山, 福井, 滋賀, 三重, 京都, 大阪, 奈良, 兵庫, 和歌山	315,994 ; 65,170 (20.6%)
D	赤松 洋：茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知, 山梨	602,497 ; 95,834 (15.9%)
E	南部 春生：北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島	186,623 ; 37,918 (20.3%)
昭和 60 年総出生数		1431,577 ; 253,272 (17.7%)

表3. 調査対象施設の出生数

出生数	A (59) B (38) C (77) D (131) E (68)					375 (%)
1000人以上	4	5	12	24	5	50 (13.3)
999~800	4	6	13	20	10	53 (14.1)
799~600	11	11	19	31	8	80 (21.3)
599~400	19	7	19	30	25	93 (24.8)
399~200	11	8	15	22	13	69 (18.4)
199~50	10	1	1	4	4	20 (5.3)
49人以下					1	1 (0.3)

表4. 産褥入院日数

入院日数	A (59) B (38) C (80) D (131) E (66)					374 (%)
7日以上			2	4	2	8 (2.1)
7	27	8	20	45	26	125 (33.4)
6~7	8	4	11	18	6	47 (12.6)
6	18	14	31	39	18	120 (32.1)
5~6	2	4	4	6	6	22 (5.9)
5	3	8	8	14	10	43 (11.5)
4日以内	1		1	1*	1	4 (1.1)
その他			3	4		7 (1.9)

表5. 出生後のもく浴

もく浴しない	A (21) B (11) C (9) D (32) E (29)					102 (27.2%)
胎脂をとる	7	2	2	15	12	38 (37.3%)
そのまま	14	9	7	17	16	63 (61.8%)
状態による					1	1
もく浴する	A (38) B (25) C (71) D (99) E (40)					273 (72.7%)
温水浴	11	15	32	47	17	122 (44.7%)
温水石けん浴	18	9	19	49	16	111 (40.7%)
殺菌剤			2	1		3
もく浴剤	9	1	18	6	7	41 (15.0%)

表6. もく浴の回数とベビーパウダーの使用状況

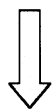
もく浴回数	A (59) B (38) C (80) D (131) E (66)					374 (%)
毎日	57	24	70	113	54	318 (85.0)
隔日		3	5	12	4	24 (6.4)
退院時のみ	1	6	1		6	14 (3.7)
その他	1	5	4	6	3	19 (5.1)
ベビーパウダー	0	0	2	5	0	7 (1.9)

表7. もく浴指導担当者

担当者	A (59) B (38) C (80) D (131) E (70)					378 (%)
助産婦	30	36	37	51	25	179 (47.4)
看護婦	7	2	13	9	13	44 (11.6)
助・看護	18	8	24	58	24	132 (34.9)
スタッフ全員	4	2	4	8	5	23 (6.1)
その他			2			2
母親にさせる	29	23	32	63	32	179 (47.4)

表8. 家庭での入浴担当者

担当者	A (59) B (37) C (77) D (131) E (70)					374 (%)
母	29	31	50	63	32	205 (54.8)
父	12	1	5	11	13	42 (11.3)
祖母	14	1	0	3	3	21 (5.6)
母・父	11	2	16	38	21	88 (23.5)
その他	3	2	6	15	1	27 (7.2)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

種々の条件下で出生する新生児に対して、適切な管理が施され、胎外環境における適応が円滑にすすむことが常に要求される。

一般に健康胎児は羊水中で自らの皮膚を胎脂で覆いながら成熟、出生してくるが、出生直後のスキンケア、沐浴管理は施設によって相異があるものと想像される。

我々はこれらの点について現実どのように管理されているかを知るため、全国各地の産科施設にアンケートを送付し、以下に述べる解答を得た。